

授業科目名	介護の基本 I	実施時期	1 学年 通年
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	4 単位 30 時間/60 時間
担当教員	奥野 勝太 (介護福祉士、社会福祉士、レクリエーション・インストラクター) 富山県介護福祉士会理事 (介護福祉士)		
授業概要・目的	少子高齢化、健康長寿など日本社会の変化に伴い介護の概念も変化してきた。介護の概念の変遷を通して、過去、現在、そして未来の介護福祉士の役割や活動を学ぶ。また、介護福祉士に関する法規や職能団体などを学習し、専門職としての使命や価値を考える。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会の変化に伴う介護福祉士の役割や活動を理解する。 ・介護福祉士に関連する法規から専門性を理解する。 ・介護福祉士に関連する職能団体や学会などの必要性や役割を理解する。 		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護福祉士の魅力とこれからの学び		
2	介護の成り立ち		
3	介護福祉士が誕生した社会背景		
4	介護の概念の変遷① (1970 年代～1980 年代)		
5	介護の概念の変遷② (1990 年代～2000 年以降)		
6	社会における介護問題とその対策		
7	介護の理念と介護福祉士の活動の場と役割 (地域包括ケアシステム、介護予防)		
8	介護福祉士の活動の場と役割 (医療的ケア、看取り、災害支援)		
9	社会福祉士及び介護福祉士法の概要と義務規定		
10	社会福祉士及び介護福祉士法の義務規定と介護福祉士の在り方		
11	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定		
12	介護福祉士養成カリキュラムの変遷		
13	求められる介護福祉士像と領域の目的、教育内容等との関係性		
14	介護福祉士を支える職能団体の必要性と関連機関		
15	介護福祉士を支える日本・都道府県介護福祉士会の活動の実際		
授業形態	講義、演習		
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本 I』/中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	介護の基本 I	実施時期	1 学年 通年
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	4 単位 30 時間/60 時間
担当教員	奥野 勝太（介護福祉士、社会福祉士、レクリエーション・インストラクター） 金谷 潤子（看護師、レクリエーション・インストラクター）		
授業概要・目的	介護の実践において、適切な判断が重要となる。ここでは、適切な判断の拠り所となる職業倫理を学習する。また、自立支援に重要なエンパワメントや意思決定支援を学びます。さらに、近年介護福祉士に重要視されてきている介護予防の実践力を高めます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士としての職業倫理を理解する。 ・介護実践に必要なエンパワメントや意思決定支援を理解する。 ・介護予防の知識、技術を習得する。 		
講 義 内 容			
後 期			
1	他職種の専門職能団体の活動		
2	介護福祉士を支える団体との活動および他団体との交流（介護の日）		
3	介護福祉士の倫理とその実践		
4	介護福祉士が守るべき日本介護福祉士会倫理綱領		
5	日本介護福祉士会倫理綱領にもとづく介護実践①（事例検討）		
6	日本介護福祉士会倫理綱領にもとづく介護実践②（事例検討）		
7	自立に向けた介護福祉のあり方—エンパワメントアプローチ		
8	自立に向けた介護福祉のあり方—当事者の意思決定支援		
9	介護予防の意義と社会的動向		
10	介護予防における生活機能評価と各種プログラム		
11	介護福祉士における介護予防・社会参加プログラム（レクリエーション）の意義・実際		
12	介護予防プログラム・社会参加プログラム（レクリエーション）の企画・支援		
13	介護予防プログラム・社会参加プログラム（レクリエーション）の実践		
14	介護予防プログラム・社会参加プログラム（レクリエーション）の実践と振り返り		
15	地域における介護予防の取り組み（課外見学）		
授業形態	講義、演習		
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本 I』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	介護の基本Ⅱ	実施時期	1 学年 通年
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	4 単位 30 時間/60 時間
担当教員	奥野 勝太 (介護福祉士、社会福祉士)		
授業概要・目的	生活支援は、生活全体に及ぶ。そのため、介護を必要とする人の生活、その人およびその家族の生活支援の在り方を学ぶ。多様な対象者のうち、障がい者の生活を支えるフォーマルサービスを中心に学習します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の概念を理解する。 ・生活支援の考え方を理解する。 ・家族支援の重要性を理解する。 ・障がい者に関するフォーマルサービスを理解する。 		
講 義 内 容			
前 期			
1	基本的な生活のしくみ		
2	私たちの生活の特性		
3	私たちの生活を彩る多様性① (価値観、生活スタイル、地域性など)		
4	私たちの生活を彩る多様性② (価値観、生活スタイル、地域性など)		
5	介護福祉を必要とする人の生活の理解① (高齢者の暮らし)		
6	介護福祉を必要とする人の生活の理解② (障がい者の暮らし)		
7	自分らしさとその人らしさのある生活		
8	介護ニーズと生活ニーズの考え方		
9	状態別における生活障がいの理解①		
10	状態別における生活障がいの理解②		
11	家族など介護者の現状と支援		
12	障がい者の生活を支える制度とフォーマルサービスの概要		
13	障がい者の生活を支えるフォーマルサービス (障害福祉サービス)		
14	障がい者の生活を支えるフォーマルサービス (障害福祉サービス) の実際①		
15	障がい者の生活を支えるフォーマルサービス (障害福祉サービス) の実際②		
授業形態	講義、演習		
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	介護の基本Ⅱ	実施時期	1 学年 通年
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	4 単位 30 時間/60 時間
担当教員	奥野 勝太（介護福祉士、社会福祉士）		
授業概要・目的	介護保険制度を中心としたフォーマル、インフォーマルサービスを踏まえ、支援に関わる機関および多職種とのよりよい連携・協働のあり方について学ぶ。介護従事者の心身の健康管理について学び、安全かつ安心した職場環境づくりを考える。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度を中心としたフォーマル、インフォーマルサービスを理解する。 ・連携、協働する地域機関や他職種を理解する。 ・心身の健康管理、職場環境づくりを理解する。 		
講 義 内 容			
後 期			
1	高齢者の生活を支える制度とフォーマルサービスの概要		
2	高齢者の生活を支えるフォーマルサービス①（介護保険サービス）		
3	高齢者の生活を支えるフォーマルサービス②（介護保険サービス）		
4	介護を必要とする人の生活を支えるインフォーマルサービス		
5	地域連携の意義と目的		
6	地域連携の機関とその役割①		
7	地域連携の機関とその役割②		
8	多職種連携・協働の意義と在り方		
9	協働する多職種の機能と役割—保健・医療・福祉職の役割と機能①		
10	協働する多職種の機能と役割—保健・医療・福祉職の役割と機能②		
11	協働する多職種の機能と役割—保健・医療・福祉職の役割と機能③		
12	健康管理の意義と社会的動向		
13	介護従事者の安全—こころの健康管理		
14	介護従事者の安全—体の健康管理（腰痛予防など）		
15	介護従事者の安全—労働環境の整備		
授業形態	講義、演習		
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	リスクマネジメントと災害支援	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当教員	奥野 勝太（介護福祉士、社会福祉士、防災士）		
授業概要・目的	介護保険制度施行以降、介護福祉分野に、リスクマネジメントの概念が持ち込まれた。ここでは、リスクマネジメントの考え方、実践方法を学ぶとともに、近年、増えている災害に対する介護福祉士の役割や支援方法を習得する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護分野に関係するリスクマネジメントの概念を理解する。 ・リスクマネジメントの手法を習得する。 ・災害時における介護福祉士の役割、支援方法を理解する。 		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護における安全の意義とリスクマネジメント		
2	介護施設におけるリスクマネジメント		
3	介護施設におけるリスクマネジメントの実際①—危険予知トレーニング—		
4	介護施設におけるリスクマネジメントの実際②—危険予知トレーニング—		
5	介護従事者におけるリスクマネジメント		
6	ヒューマンエラーと人間的特性		
7	エラーチェーンと SHEL モデル①		
8	エラーチェーンと SHEL モデル②		
9	介護現場で多い危険とその対策①（転倒）		
10	介護現場で多い危険とその対策②（身体拘束）		
11	災害対策のためのリスクマネジメント①（災害とは）		
12	災害対策のためのリスクマネジメント②（福祉施設での取り組み）		
13	災害対応における介護福祉士の役割①		
14	災害対応における介護福祉士の役割②		
15	災害による避難所運営の模擬支援		
授業形態	講義、演習		
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ』／中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	介護予防とリハビリテーション	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー） 片岡 淳（日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー） 小澤 光子（作業療法士）・田中 勝（理学療法士）・徳田 裕（理学療法士）		
授業概要・目的	1. 対象に応じた、運動による介護予防方法の実施・指導方法を学ぶ。 2. 日常生活活動に応じた、リハビリテーション方法について学ぶ。		
到達目標	1. 対象に応じた、介護予防運動プログラムを立案し、指導実践を理解する。 2. リハビリテーション方法を理解し、介護支援に応用できる能力を習得する。		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護予防を必要とする対象の心身機能について 運動前の健康チェック方法について		
2	体力測定と評価方法の理論と実践		
3	運動疾患を引き起こす、静的姿勢と・動的姿勢について		
4	介護予防運動指導の方法と実践①（いろは体操指導）		
5	介護予防運動指導の方法と実践②（いろは体操指導）		
6	関節可動域訓練の理論と実践		
7	筋力増強法の理論と実践		
8	起き上がり動作、座位保持・座位移動に関わるリハビリテーション理論と実践		
9	歩行動作に関わるリハビリテーション理論と実践		
10	障がい・疾患によるリハビリテーション理論と実践（呼吸器リハビリ）		
11	コミュニケーションに対するリハビリテーション理論と実践		
12	食事に対するリハビリテーション理論と実践		
13	更衣に対するリハビリテーション理論と実践		
14	整容・排泄に対するリハビリテーション理論と実践		
15	入浴に対するリハビリテーション理論と実践		
授業形態	講義、演習		
評価方法	筆記試験、出席状況、レポート		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解』／中央法規出版		
参考図書	日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー教本 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト		

授業科目名	コミュニケーション技術 I	実施時期	1 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	金谷 潤子 (看護師)・中島 智子 (介護福祉士)		
授業概要・目的	1. 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的、介護技術とコミュニケーションの関係性について知識・技術を学習する。 2. コミュニケーション技法について、その目的や効果を学習し、具体的な活用を演習を通して実践する。 3. チームコミュニケーションの意義・目的を学習し、報告・連絡・相談・記録方法について学習する。		
到達目標	1. 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解し、介護技術としてのコミュニケーション技法を習得する。 2. チームコミュニケーションの意義・目的を理解し、報告・連絡・相談・記録方法について習得する。		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護におけるコミュニケーションとは		
2	介護におけるコミュニケーションの対象		
3	援助関係とコミュニケーション		
4	コミュニケーション態度に関する基本技術① 傾聴・受容		
5	コミュニケーション態度に関する基本技術② 共感・コミュニケーションにおける距離		
6	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本		
7	目的別のコミュニケーション技術		
8	集団におけるコミュニケーション技術		
9	コミュニケーションの基本技術 校外演習：高齢者とコミュニケーションをとろう		
10	コミュニケーションの基本技術 校外演習の振り返り		
11	介護におけるチームのコミュニケーション チームのコミュニケーションとは		
12	介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談の技術①		
13	介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談の技術②		
14	介護におけるチームのコミュニケーション 記録の技術①		
15	介護におけるチームのコミュニケーション 記録の技術②		
授業形態	講義、演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	実施時期	1 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	金谷 潤子（看護師）・中島 智子（介護福祉士）・前坂 宣明（看護師）		
授業概要・目的	1. 利用者家族との関係づくりや、支援する為のコミュニケーション技術を学習する。 2. 対象者に応じたコミュニケーション技術について、学習する。 3. 会議や議事進行の技術を学び、事例検討会でリーダーシップやチーム運営の基本を学習する。 4. ICT の利点と欠点を学び、情報の活用方法や個人情報保護方法を学習する。		
到達目標	1. 利用者家族との信頼関係構築・支援に必要なコミュニケーション技術を習得する。 2. 対象者の疾患・特性に応じたコミュニケーション技術を習得する。 3. 会議や事例検討会等の議事進行を理解し、運営方法を習得する。 4. ICT の利点と欠点を学び、情報の活用方法や個人情報保護方法を理解する。		
講 義 内 容			
後 期			
1	家族とのコミュニケーション① 家族との関係づくり その1		
2	家族とのコミュニケーション② 家族との関係づくり その2		
3	家族とのコミュニケーション③ 家族への助言・指導・調整 その1		
4	家族とのコミュニケーション④ 家族への助言・指導・調整 その2		
5	家族とのコミュニケーション⑤ 家族関係と介護ストレスへの対応		
6	対象者の特性に応じたコミュニケーション① 視覚・聴覚障害		
7	対象者の特性に応じたコミュニケーション② 構音障害・失語症		
8	対象者の特性に応じたコミュニケーション③ 認知症		
9	対象者の特性に応じたコミュニケーション④ うつ病・抑うつ状態・統合失調症		
10	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑤ 知的障害・発達障害		
11	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑥ 高次脳機能障害・重症心身障害		
12	会議・議事進行の技術 会議とは 会議の議事進行 チームにおける説明の技術		
13	事例検討に関する技術① ケアカンファレンス・サービス担当者会議等の意義目的について		
14	事例検討に関する技術② 事例検討の実践的展開・問題解決の手法・注意点・支援方法		
15	情報の活用と管理のための技術 ICT による情報活用の利点と欠点		
授業形態	講義、演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	生活支援技術 I	実施時期	1 学年 通年
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間/60 時間
担当教員	奥野 勝太（介護福祉士、社会福祉士）・中嶋 恭子（介護福祉士） 今村 彰宏（1 級建築士）		
授業概要・目的	介護福祉士は、本人主体の生活が継続できるよう支援する。ここでは、生活支援の考え方を体験的に学びます。福祉用具の意義や場面に応じた使用方法、快適な居住環境の整備の在り方について学習します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援の意義や目的などを理解する。 福祉用具や居住環境の意義や役割を通して、住環境の重要性、快適な環境作りを理解する。 ベッド周辺の環境整備ができる。 		
講 義 内 容			
前 期			
1	生活支援の基本的な考え方		
2	生活支援の必要性の理解（高齢者疑似体験①）		
3	生活支援の必要性の理解（高齢者疑似体験②）		
4	生活支援と福祉用具の活用①		
5	生活支援と福祉用具の活用②		
6	生活支援における居住環境整備の意義と目的①		
7	生活支援における居住環境整備の意義と目的②		
8	生活支援における居住環境整備の意義と目的③		
9	安心して心地よい生活の場づくり①		
10	安心して心地よい生活の場づくり②		
11	安心して心地よい生活の場づくり③		
12	安心して心地よい生活の場づくり④		
13	住環境コーディネーター試験対策		
14	快適な居住環境の整備（ベッドメイキング①）		
15	快適な居住環境の整備（ベッドメイキング②）		
授業形態	講義、演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術 I』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	生活支援技術 I	実施時期	1 学年 通年
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	2 単位 30 時間/60 時間
担当教員	奥野 勝太（介護福祉士、社会福祉士）・柴田 光代（家庭科教員免許）		
授業概要・目的	衣食住の観点から生活を理解し、介護を必要とする人の自立・自律の尊重をふまえた家事支援に関する介護の知識、技術について習得する。また、災害時における自助、公助などに関する基礎知識を体験的に学習する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家事支援の意義や考え方を理解する。 ・被服・食生活の基本的知識、技術を習得する。 ・災害時における自助、公助などの基礎知識を理解する。 		
講 義 内 容			
後 期			
1	自立生活を支える家事とは		
2	自立に向けた家事の介護をするために介護福祉職がすべきこと		
3	家庭生活の営み―食生活の基礎知識（献立の立て方、食品の購入と選択、食品の保存）		
4	家庭生活の営み―食生活の基礎知識（食品衛生、調理の基本、食品の調理性）		
5	自立に向けた家事の介護（洗濯、そうじ・ごみ捨ての介助）		
6	被服生活の基礎知識 （被服生活、被服生活の管理、被服と皮膚の衛生保持・管理、着やすく心地よい被服）		
7	家庭生活の営み―被服生活の基礎知識（基礎縫いの実習）		
8	食生活の基本知識と基本技術の実践①（基本の調理実習）		
9	食生活の基本知識と基本技術の実践②（基本の調理実習）		
10	介護を必要とする人の献立調理の実践①（高齢者向けの調理実習）		
11	介護を必要とする人の献立調理の実践②（高齢者向けの調理実習）		
12	災害時における生活支援①―災害の種類とその対応		
13	災害時における生活支援②―地域における災害への取り組み		
14	災害時における生活支援③―災害体験学習―（施設見学）		
15	災害時における生活支援④―災害支援における介護福祉士の重要性―		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術 I』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	生活支援技術Ⅱ	実施時期	1 学年 通年
授業回数	90 分×30 回	単位・時間	4 単位 60 時間/120 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）・中嶋 恭子（介護福祉士）		
授業概要・目的	1. 尊厳保持の観点をもち、自立・自律を尊重した生活支援の基礎知識を学習する。 2. 潜在能力を引き出し、見守ることを含めた、その人にとって適切な方法で支援できる技術を習得する。		
到達目標	1. 安全・安楽で尊厳を保持し、自立に向けた移動の介護を行うことができる。 2. 安全・安楽で尊厳を保持し、自立に向けた身じたくの介護を行うことができる。 3. 安全・安楽で尊厳を保持し、自立に向けた食事の介護を行うことができる。		
講 義 内 容			
前 期			
1	移動の介護①	16	身じたくの介護③
2	移動の介護②	17	身じたくの介護④
3	移動の介護③	18	身じたくの介護⑤
4	移動の介護④	19	身じたくの介護⑥
5	移動の介護⑤	20	身じたくの介護⑦
6	移動の介護⑥	21	身じたくの介護⑧
7	移動の介護⑦	22	身じたくの介護⑨
8	移動の介護⑧	23	身じたくの介護⑩
9	移動の介護⑨	24	身じたくの介護⑪
10	移動の介護⑩	25	食事の介護①
11	移動の介護⑪	26	食事の介護②
12	移動の介護⑫	27	食事の介護③
13	移動の介護⑬	28	食事の介護④
14	身じたくの介護①	29	食事の介護⑤
15	身じたくの介護②	30	食事の介護⑥
授業形態	演習		
評価方法	筆記試験、技術試験、レポート、出席状況等		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第 6 巻 生活支援技術Ⅰ』／中央法規出版 『最新 介護福祉士養成講座 第 7 巻 生活支援技術Ⅱ』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	生活支援技術Ⅱ		実施時期	1 学年 通年
授業回数	90 分×30 回		単位・時間	4 単位 60 時間/120 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）・中嶋 恭子（介護福祉士）			
授業概要・目的	1. 尊厳保持の観点をもち、自立・自律を尊重した生活支援の基礎知識を学習する。 2. 潜在能力を引き出し、見守ることを含めた、その人にとって適切な方法で支援できる技術を習得する。			
到達目標	1. 安全に日常生活を過ごせるように、健康観察を行うことができる。 2. 安全・安楽で尊厳を保持し、自立に向けた入浴・清潔保持の介護を行うことができる。 3. 安全・安楽で尊厳を保持し、自立に向けた排泄の介護を行うことができる。 4. 安全・安楽で尊厳を保持し、休息・睡眠の介護を行うことができる。 5. 安全・安楽で尊厳を保持し、終末期における介護方法を理解できる。 6. 応急手当の方法と清潔なものの取扱い方法を理解できる。			
講 義 内 容				
後 期				
1	健康観察①	16	排泄の介護①	
2	健康観察②	17	排泄の介護②	
3	健康観察③	18	排泄の介護③	
4	健康観察④	19	排泄の介護④	
5	入浴・清潔保持の介護①	20	排泄の介護⑤	
6	入浴・清潔保持の介護②	21	排泄の介護⑥	
7	入浴・清潔保持の介護③	22	排泄の介護⑦	
8	入浴・清潔保持の介護④	23	あん法	
9	入浴・清潔保持の介護⑤	24	休息と睡眠の介護①	
10	入浴・清潔保持の介護⑥	25	休息と睡眠の介護②	
11	入浴・清潔保持の介護⑦	26	終末期の介護①	
12	入浴・清潔保持の介護⑧	27	終末期の介護②	
13	入浴・清潔保持の介護⑨	28	清潔なものの取り扱い①	
14	入浴・清潔保持の介護⑩	29	清潔なものの取り扱い②	
15	入浴・清潔保持の介護⑪	30	清潔なものの取り扱い③	
授業形態	演習			
評価方法	筆記試験、技術試験、レポート、出席状況等			
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ』／中央法規出版 『最新 介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ』／中央法規出版			
参考図書				

授業科目名	生活支援技術Ⅲ	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）・吉波 美穂子（作業療法士）・高崎 信弘（作業療法士）		
授業概要・目的	1. 対象が尊厳を保持しながら、主体的に生活が継続できる支援技術を学習する。 2. 疾患や障害に応じて、安全に適切な生活支援の知識・技術について習得する。 3. 対象の自立に向けた、介護実践の根拠について説明できる。		
到達目標	1. 肢体不自由に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 2. 視覚・聴覚・言語・重複障害に応じた、安楽・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 3. 知的・発達障害に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 4. 高次脳機能障害に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。		
講 義 内 容			
前 期			
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは		
2	肢体不自由に応じた介護①		
3	肢体不自由に応じた介護②		
4	肢体不自由に応じた介護③		
5	肢体不自由に応じた介護④		
6	視覚障害者に応じた介護①		
7	視覚障害者に応じた介護②		
8	聴覚・言語障害に応じた介護①		
9	聴覚・言語障害に応じた介護② 重複障害に応じた介護		
10	知的障害に応じた介護①		
11	知的障害に応じた介護②		
12	発達障害に応じた介護①		
13	発達障害に応じた介護②		
14	高次脳機能障害に応じた介護①		
15	高次脳機能障害に応じた介護②		
授業形態	講義、演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	生活支援技術Ⅳ	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	前坂 宣明（看護師）・吉波 美穂子（作業療法士） 高崎 信弘（作業療法士）・渡邊 純子（作業療法士） 館川 美貴子（管理栄養士）・宮崎 卓也（薬剤師）		
授業概要・目的	1. 対象が尊厳を保持しながら、主体的に生活が継続できる支援技術を学習する。 2. 疾患や障害に応じて、安全に適切な生活支援の知識・技術について習得する。 3. 対象の自立に向けた、介護実践の根拠について説明できる。		
到達目標	1. 内部障害に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 2. 重症心身障害に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 3. 精神障害に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。 4. 難病に応じた、安全・尊厳保持・自立に向けた介護を理解する。		
講 義 内 容			
後 期			
1	内部障害① 心臓機能障害に応じた介護		
2	内部障害② 呼吸機能障害に応じた介護		
3	内部障害③ 腎臓機能障害に応じた介護		
4	内部障害④ 膀胱・直腸機能障害に応じた介護		
5	内部障害⑤ 小腸機能障害に応じた介護 HIVによる免疫機能障害に応じた介護		
6	内部障害⑥ 肝臓機能障害に応じた介護		
7	内部障害⑦ 内部障害の観察視点について		
8	内部障害⑧ 内部障害の食事療法に対する介護		
9	内部障害⑨ 内部障害の薬物療法に対する介護		
10	重症心身障害に応じた介護①		
11	重症心身障害に応じた介護②		
12	精神障害に応じた介護①		
13	精神障害に応じた介護②		
14	難病① 筋萎縮性側索硬化症（ALS）・パーキンソン病に応じた介護		
15	難病② 悪性関節リウマチ・筋ジストロフィーに応じた介護		
授業形態	講義、演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ』／中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	生活支援技術V（手話・点字）	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	山崎 清之（手話通訳士）・宮口 覚（盲学校特殊教科教諭一級普通免許）		
授業概要・目的	〔手話〕 講義・DVD 教材の視聴・実技・耳の聞こえない人を招いての交流を通じて、「手話」実技と「耳の聞こえない人たちの暮らし」の実際を学ぶ。 〔点字〕 ①視覚障害による不自由さを理解する。 ②点字の概要や障害者とのコミュニケーションの方法を学ぶ。		
到達目標	〔手話〕 耳の聞こえない人たちとのコミュニケーションの実際を学び、手話や身ぶりを使って一通りに自己紹介と基本的な日常会話ができるようにするとともに、聞こえない人たちの暮らしの実際を学ぶ。 〔点字〕 視覚障害者の不自由さ、点字の概要を理解し応用できる力を養う。		
講 義 内 容			
後 期			
1	〔講義〕 耳の聞こえない人たちとのコミュニケーション 〔実技〕 身ぶりで伝えあってみよう		
2	〔実技〕 名前を表してみよう・家族の紹介をしてみよう		
3	〔講義〕 ろう教育 〔実技〕 趣味を表してみよう・ここまでの実技の振り返り		
4	〔実技〕 指文字を覚えよう		
5	〔実技〕 指文字の振り返り・数字を使ったいろいろな表現を覚えよう		
6	〔講義・実技〕 耳の聞こえない「ろう」の人の話を聞こう		
7	〔講義〕 耳の聞こえない人たちの生活 〔実技〕 住所の表し方・地名の表し方を覚えよう		
8	〔実技〕 一日・一ヶ月・一年・季節等の表し方を覚えよう・仕事の表し方を覚えよう		
9	〔講義〕 聞こえない仕組みと実際 〔実技〕 自己紹介のまとめ		
10	〔実技〕 耳の聞こえない「ろう」の人と手話や身ぶりを使って話をしよう		
11	点字の概要／構成と歴史／視覚障害者と点字／五十音の書き方①視覚障害の不自由について		
12	点字の書き方②（五十音、仮名遣い、分かち書き、複合語内の切れ続き）		
13	点字の書き方③（特殊音、固有名詞、称号、見出し、文の書き方）		
14	点字の書き方④（記号、数字、アルファベット等）視覚障害者の移動方法		
15	点字を実際に書いてみよう（手紙、案内文）		
授業形態	演習		
評価方法	〔手話〕 授業態度、出席率、ミニレポート、試験 〔点字〕 課題、授業中の取り組み、テスト等		
テキスト	〔手話〕 今すぐはじめる手話テキスト『聴さんと学ぼう！』／ 一般財団法人 全日ろうあ連盟 〔点字〕 『初めての点訳 第3版』／全国視覚障害者情報提供施設協会 『点字の手引き 第3版』／全国視覚障害者情報提供施設協会		
参考図書			

授業科目名	次世代型生活支援技術	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	奥野 勝太（介護福祉士、社会福祉士）・前坂 宣明（看護師） 久保 健（スマート介護士 Expert）		
授業概要・目的	介護を必要とする対象者やその家族へのより良い介護サービスの提供に向け、介護ロボットや IT の活用など新たな介護サービスが進められている。ここでは、介護ロボットや IT など次世代の介護サービスの知識、技術を学習します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットの概念や意義を理解する。 ・生活場面に応じた多様な介護ロボットや I T などの活用方法を理解する。 		
講 義 内 容			
後 期			
1	これからの介護業界の展望		
2	介護ロボット概論～概念と意義		
3	介護ロボットに関する倫理と自立支援		
4	介護ロボットの使用方法とリスク管理		
5	介護ロボットの種類と方法①（移動・移乗）		
6	介護ロボットの種類と方法②（コミュニケーション・見守り支援）		
7	介護ロボットの種類と方法③（排泄、入浴）		
8	介護ロボットの種類と方法④（介護業務支援 記録等）		
9	認知症と介護ロボットを活用した支援①		
10	認知症と介護ロボットを活用した支援②		
11	リモートを活用した遠隔介護（ICT）		
12	介護ロボットを活用した実践展開①		
13	介護ロボットを活用した実践展開②		
14	介護ロボット施設見学		
15	介護ロボット施設見学		
授業形態	講義、演習		
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 第 6 巻 生活支援技術 I 』/中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	介護過程 I	実施時期	1 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子 (介護福祉士)		
授業概要・目的	介護過程の理論を学び、他の科目で学習した知識や技術を統合した介護過程の展開 (情報収集)・主目標の抽出ができる力を習得する。		
到達目標	1. 介護過程の理論・意義を理解することができる。 2. ICF を理解することができる。 3. ICF を活用して情報収集し、利用者の全体像を把握し、主目標を抽出することができる。		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護過程の意義と目的① -介護過程とは-		
2	介護過程の意義と目的② -ICF の視点に基づいて利用者像を把握するために-		
3	介護過程の意義と目的③ -ICF の視点に基づいて利用者像を把握するために-		
4	介護過程の意義と目的④ -ICF の視点に基づいて利用者像を把握するために-		
5	介護過程の意義と目的⑤ -生活支援の考え方と介護過程の必要性-		
6	介護過程の理解① -介護過程の全体像-		
7	介護過程の理解② -介護過程の全体像-		
8	介護過程の理解③ -アセスメントとは-		
9	介護過程の理解④ -情報収集とは・その方法-		
10	介護過程の理解⑤ -主目標とは-		
11	介護過程の理解⑥ -ICF を活用した情報収集の実際①-		
12	介護過程の理解⑦ -ICF を活用した情報収集の実際②-		
13	介護過程の理解⑧ -利用者の全体像把握①-		
14	介護過程の理解⑨ -利用者の全体像把握②-		
15	介護過程の理解⑩ -利用者の全体像把握③・発表-		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、出席状況、課題		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程』/中央法規出版		
参考図書	『「よくする介護」を実践するための ICF の理解と活用』/中央法規出版		

授業科目名	介護過程Ⅱ	実施時期	1 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子（介護福祉士）・奥野 勝太（介護福祉士、社会福祉士） 前坂 宣明（看護師）		
授業概要・目的	介護過程の理論を学び、他の科目で学習した知識や技術を統合した介護過程の展開（情報収集から課題の明確化、介護目標立案まで）ができる思考力を習得する。		
到達目標	1. 「情報の解釈・関連付け・統合化」を理解し、実施できる。 2. 「課題の明確化」を理解し、本人主体の課題を抽出できる。 3. 介護目標を理解し、本人主体の目標を立案することができる。		
講 義 内 容			
後 期			
1	介護過程の理解① ー情報の解釈・関連づけ・統合化・生活課題の明確化とはー		
2	介護過程の理解② ー情報の解釈・関連づけ・統合化の方法①ー		
3	介護過程の理解③ ー情報の解釈・関連づけ・統合化の方法②ー		
4	介護過程の理解④ ー課題の明確化とは①ー		
5	介護過程の理解⑤ ー課題の明確化とは②ー		
6	介護過程の理解⑥ ー介護目標とはー		
7	アセスメントの実際① ー事例①ー		
8	アセスメントの実際② ー事例①ー		
9	アセスメントの実際③ ー事例②ー		
10	アセスメントの実際④ ー事例②ー		
11	アセスメントの実際⑤ ー事例②・発表ー		
12	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開① ーケアスタディ聴講に向けてー		
13	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開② ーケアスタディ聴講ー		
14	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開③ ーケアスタディ聴講ー		
15	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開④ ー健康状態の把握と記録ー		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、出席状況、課題		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程』／中央法規出版		
参考図書	『「よくする介護」を実践するための ICF の理解と活用』／中央法規出版		

授業科目名	介護過程Ⅲ	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子 (介護福祉士)・奥野 勝太 (介護福祉士、社会福祉士) 前坂 宣明 (看護師)		
授業概要・目的	学内の授業や介護実習を通して学んだ知識や技術を統合し、個別の事例を通じて、その人らしさを活かした介護過程を展開する能力および実践する能力を習得する。		
到達目標	1. 介護計画の立案ができる。 2. 具体的な援助内容を立案できる。 3. 実施した結果から考察・評価することができる。		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護過程の理解① ー介護計画とはー		
2	介護過程の理解② ー介護計画の立案 介護目標の設定についてー		
3	介護過程の理解③ ー介護計画の立案① アセスメントから介護目標設定までー		
4	介護過程の理解④ ー介護計画の立案② アセスメントから介護目標設定までー		
5	介護過程の理解⑤ ー介護計画の立案③ 発表 ー		
6	介護過程の理解⑥ ーその人らしさを深めるー		
7	介護過程の理解⑦ ーその人らしさを深めるー		
8	介護過程の理解⑧ ーその人らしさを深める・発表ー		
9	介護過程の理解⑨ ー実施ー		
10	介護過程の理解⑩ ー結果ー		
11	介護過程の理解⑪ ー考察・評価ー		
12	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開① ー事例ー		
13	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開② ー事例ー		
14	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開③ ー事例ー		
15	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開④ ー事例・発表ー		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験、出席状況、課題		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程』／中央法規出版		
参考図書	『「よくする介護」を実践するための ICF の理解と活用』／中央法規出版		

授業科目名	介護過程Ⅳ	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	奥野 勝太（介護福祉士、社会福祉士） 山崎 百合子（社会福祉士、主任介護支援専門員）		
授業概要・目的	利用者の生活支援に必要なケアマネジメントおよび社会資源の活用などについて理解する。チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解するとともに、災害支援、介護ロボットの活用など場面に応じた介護過程の展開方法を習得する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの概念について理解する。 ・社会資源の把握と活用の意義を理解する。 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割やあり方を理解する。 ・場面に応じた介護過程の展開ができる。 		
講 義 内 容			
後 期			
1	ケアマネジメントの全体像・定義、歴史的背景		
2	日本におけるケアマネジメントの変遷		
3	個別援助計画とケアプランの関連性		
4	チームアプローチにおける介護福祉士の役割と意義		
5	チームアプローチにおける介護福祉士の役割（事例演習）①		
6	チームアプローチにおける介護福祉士の役割（事例演習）②		
7	チームアプローチによる事例検討①（学生交流学習会）		
8	チームアプローチによる事例検討②（学生交流学習会）		
9	地域にある社会資源の把握と活用の意義		
10	地域にある社会資源の実際理解①		
11	地域の社会資源についてのリフレクション（発表）		
12	場面に応じた介護過程の展開①（災害により生活環境が変化した高齢者/介護ロボットを活用した生活支援）		
13	場面に応じた介護過程の展開②（災害により生活環境が変化した高齢者/介護ロボットを活用した生活支援）		
14	場面に応じた介護過程の展開③（災害により生活環境が変化した高齢者/介護ロボットを活用した生活支援）		
15	場面に応じた介護過程の展開④発表 （災害により生活環境が変化した高齢者/介護ロボットを活用した生活支援）		
授業形態	講義・校外学習		
評価方法	レポート、筆記試験		
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程』/中央法規出版		
参考図書			

授業科目名	事例研究	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子 (介護福祉士)・奥野 勝太 (介護福祉士、社会福祉士) 前坂 宣明 (看護師)・小林 宣世 (パソコンスクール代表)		
授業概要・目的	事例研究の目的・意義を理解し、介護過程実習を通して実践した展開方法をまとめ、発表する方法を習得する。また、発表することで自己の展開の振り返りや他者の発表内容から実践方法の多様さを学習する。		
到達目標	1. 研究的視点をもって抄録を作成することができる。 2. 発表原稿、発表資料を作成し、わかりやすく発表することができる。 3. 新たな課題を見つけることができる。		
講 義 内 容			
後 期			
1	事例研究の意義・目的		
2	抄録作成の計画・文献調査		
3	抄録作成①		
4	抄録作成②		
5	抄録作成③		
6	担当教員からの面接指導・抄録修正①		
7	担当教員からの面接指導・抄録修正②		
8	プレゼンテーションの方法① －プレゼンテーションソフトの概要、オブジェクトの種類と入力方法－		
9	プレゼンテーションの方法② －マスターデザインとページレイアウトの利用、プレゼンテーションの構成方法、印刷出力、スライドショー、効果的なプレゼンテーション技法－		
10	プレゼンテーションの方法③ －プレゼンテーションの構成－		
11	プレゼンテーションの展開方法① －担当教員からのプレゼンテーション技法の指導－		
12	プレゼンテーションの展開方法② －担当教員からのプレゼンテーション技法の指導－		
13	事例研究発表会① リハーサル		
14	事例研究発表会②		
15	事例研究発表会③		
授業形態	演習		
評価方法	レポート、出席状況を合わせて評価する。		
テキスト			
参考図書			

授業科目名	介護総合演習 I	実施時期	1 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子 (介護福祉士)・奥野 勝太 (介護福祉士、社会福祉士) 前坂 宣明 (看護師)・小林 宣世 (パソコンスクール代表)		
授業概要・目的	介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けを含めた事前準備や、実習中に必要な技術を身につける。実習後は、実習からの学びをパソコンを使ってまとめ、発表をすることで自己の課題を明確にする。		
到達目標	1. 実習に向けての事前準備ができる。 2. 実習後の自己課題を明確にすることができる。		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護総合演習と介護実習で何を学ぶか		
2	実習先の理解①		
3	実習先の理解②		
4	実習先の理解③		
5	介護実習 I <介護基礎実習>の目的・目標・方法・心得		
6	記録の方法と実習課題の作成方法①		
7	記録の方法と実習課題の作成方法②		
8	記録の方法と実習課題の作成方法③		
9	ワープロソフトを使った文字入力		
10	ワープロソフトを使った表の挿入		
11	ワープロソフトを使った画像の挿入・編集		
12	反省会の意義・目的・運営方法		
13	実習前最終確認		
14	実習後の自己評価と整理		
15	介護実習 I (介護基礎実習) のまとめと発表		
授業形態	演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第 10 巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護総合演習Ⅱ	実施時期	1 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子 (介護福祉士)・奥野 勝太 (介護福祉士、社会福祉士) 前坂 宣明 (看護師)・齊藤 かや乃 (茶道裏千家准教授) 竹原 洋子 (おわら公認指導員)		
授業概要・目的	各領域で学んだ知識と技術を統合し、根拠に基づいた支援方法を思考できる能力を習得する。また、日本文化や地域の特性を知り、個々人の全体像をとらえ、生活歴を理解できる知識を得る。		
到達目標	1. 利用者を観察し、一人ひとりの支援方法の根拠を記録することができる。 2. 利用者の全体像を捉えることができる。 3. 地域に根ざした文化や生活を理解し、利用者理解に活かすことができる。		
講 義 内 容			
後 期			
1	介護実習Ⅰ<介護技術実習>の概要		
2	施設環境の理解① -実習施設がある地域の行事や特徴について調べる-		
3	施設環境の理解② -実習施設がある地域の行事や特徴について調べる-		
4	施設環境の理解③ -実習施設がある地域の行事や特徴・発表-		
5	実習課題記録の方法と実際①		
6	実習課題記録の方法と実際②		
7	実習課題記録の方法と実際③		
8	介護技術の確認① (コミュニケーション・観察・着脱・食事・口腔ケア・移動・移乗・排泄等)		
9	介護技術の確認② (コミュニケーション・観察・着脱・食事・口腔ケア・移動・移乗・排泄等)		
10	介護実習Ⅰ<介護技術実習>で想定される利用者の生活文化の理解 日本の伝統文化の理解 -茶道-		
11	介護実習Ⅰ<介護技術実習>で想定される利用者の生活文化の理解 地域の伝統文化の理解① -舞踊・おわら-		
12	介護実習Ⅰ<介護技術実習>で想定される利用者の生活文化の理解 地域の伝統文化の理解② -舞踊・おわら-		
13	介護実習Ⅰ<介護技術実習>で想定される利用者の生活文化の理解 地域の伝統文化の理解③ -舞踊・おわら-		
14	実習前最終確認		
15	実習後の自己評価と整理		
授業形態	演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況を合わせて評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護総合演習Ⅲ	実施時期	2 学年 前期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子（介護福祉士）・奥野 勝太（介護福祉士、社会福祉士） 前坂 宣明（看護師）		
授業概要・目的	「その人らしく生活する」を支援するために、様々な福祉サービスの種類・特性を理解する。また、支援に求められる技術・知識を深め、実践力を身につけるための学習をする。		
到達目標	1. 様々な福祉サービスの種類・特性が理解できる。 2. 実習に必要な調理、掃除、挨拶の基本を身につけることができる。		
講 義 内 容			
前 期			
1	介護実習Ⅱ（介護過程その1）の概要		
2	介護実習Ⅱ＜介護過程その1＞の心得と実習記録・課題の作成方法①		
3	実習記録・課題の作成方法②		
4	実習前最終確認		
5	実習後の自己評価と整理		
6	介護実習Ⅰ 訪問介護実習の目的・目標・方法、実習先の理解		
7	訪問介護実習の心得と実習記録・課題の作成方法		
8	訪問の技術の確認（コミュニケーション・挨拶の仕方等）		
9	介護実習Ⅰ グループホーム・小規模多機能型居宅介護実習の目的・目標・方法、実習先の理解		
10	グループホーム・小規模多機能型居宅介護実習の心得と実習記録・課題の作成方法		
11	実習後の自己評価と整理		
12	総合実習 ステップアップ実習の目的・目標・方法、実習先の理解		
13	ステップアップ実習の心得と実習課題の作成方法、記録の方法と実際		
14	実習後の自己評価と整理・ステップアップ実習発表会準備		
15	ステップアップ実習発表会		
授業形態	演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況、発表会を合わせて評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護総合演習Ⅳ	実施時期	2 学年 後期
授業回数	90 分×15 回	単位・時間数	1 単位 30 時間
担当教員	中嶋 恭子（介護福祉士）・奥野 勝太（介護福祉士、社会福祉士） 前坂 宣明（看護師）		
授業概要・目的	各領域や実習で学んだ知識・技術を統合し、研究の視点を持った介護過程の展開を実践できるよう学習する。ケースカンファレンスで他職種の意見を求められるよう、進行方法を習得する。		
到達目標	1. 介護過程と事例研究の関係性を理解することができる。 2. 介護過程の展開を実践し、記録することができる。 3. カンファレンスを進行することができる。		
講 義 内 容			
後 期			
1	介護実習Ⅱ（介護過程その２）の概要		
2	介護過程実習と事例研究との関係性①－理解－		
3	介護過程実習と事例研究の関係性②－展開方法－		
4	実習課題の作成方法①		
5	実習課題の作成方法②		
6	介護実習Ⅱ（介護過程その２）で想定される実習先の理解① 障がい者施設見学		
7	介護実習Ⅱ（介護過程その２）で想定される実習先の理解② 障がい者施設見学		
8	介護過程の確認①（アセスメント・課題の明確化）		
9	介護過程の確認②（アセスメント・課題の明確化から介護計画の立案へ）		
10	介護過程の確認③（介護計画の立案から実施・結果・考察）		
11	介護過程の確認④（介護の実施・結果・考察から評価へ）		
12	介護過程の確認⑤（展開のまとめ）		
13	ケアカンファレンスの実践 事例発表を通して		
14	ケアカンファレンスの実践 事例発表を通して・実習前最終確認		
15	実習後の自己評価と整理		
授業形態	演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護実習 I <介護基礎実習>	実施時期	1 学年 前期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	1 単位 45 時間
授業概要・目的	福祉施設の支援内容や利用者の生活を実際に見学し、状況を知る。生活支援技術を実習指導者の指導のもと実施する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. よりよい関わりのためのコミュニケーションを学ぶ。 2. 施設の目的・役割・構造について理解する。 3. 介護利用者の生活について理解する。 4. 介護利用者に対する介護活動の実際について理解を深める。 5. 通所サービスの実際を理解する。 6. 介護福祉士の役割を知り、自己の課題を明らかにする。 		
実 習 内 容			
配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護実習 I <介護技術実習>	実施時期	1 学年 後期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	2 単位 90 時間
授業概要・目的	対象の施設生活を理解し、基本的な日常生活援助を行うことができる。 その人らしさを維持しながら生活する状況について理解し、観察の重要性を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護利用者の状態に応じたコミュニケーションをする。 2. 施設の目的・役割・構造について理解する。 3. 介護利用者の生活の流れや特性について理解する。 4. 介護利用者に対する介護活動の実際を理解し基本的日常生活援助をする。 5. 地域性を含めた介護利用者の全体像を理解する。 6. 介護活動の実際を通し、他職種の役割・支援内容について理解する。 		
実 習 内 容			
配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護実習 I <訪問介護実習>	実施時期	2 学年 前期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	1 単位 45 時間
授業概要・目的	<p>地域社会で暮らす高齢者や障がいのある人が、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解し、その生活から個別ケアの実践の重要性を学ぶ。</p> <p>対象の生活を理解し、基本的な日常生活援助を行うことができる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における訪問介護サービスの目的及び機能等について理解する。 2. 訪問介護事業及び利用者の概要について理解する。 3. 利用者並びに家族が求めている介護ニーズの理解をする。 4. 利用者の介護ニーズに応じた日常生活援助の方法について考え、援助する。 5. 訪問介護サービスの活動の実際を通し、地域福祉・保健・医療等、連携について理解する。 		
実 習 内 容			
<p>配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。</p>			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第 10 巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護実習 I ＜グループホーム・小規模多機能型居宅介護実習＞	実施時期	2 学年 前期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	1 単位 45 時間
授業概要・目的	地域社会で暮らす高齢者や障がいのある人が、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解し、その生活から個別ケアの実践の重要性を学ぶ。対象の生活を理解し、基本的な日常生活援助を行うことができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域密着型サービス機関の目的・役割・構造及び利用者の概要について理解する。 2. グループホームや小規模多機能型居宅介護の実際を理解する。 3. 利用者並びに家族が求めている介護ニーズの理解をする。 4. 利用者の介護ニーズに応じた日常生活援助の方法について考え、援助する。 5. グループホームや小規模多機能型居宅介護活動の実際を通し、地域福祉・保健・医療等、連携について理解する。 		
実 習 内 容			
<p>下記の実習目標を持ち、配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。</p>			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護実習 I ＜ステップアップ実習＞	実施時期	2 学年 前期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	1 単位 45 時間
授業概要・目的	多職多様な福祉施設の支援や地域社会との連携を学習し、福祉分野における視野の拡大や考え方の醸成を図る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の目的・役割・構造について理解する。 2. 介護利用者の一日の生活の流れや特性について理解する。 3. 介護利用者の生活を理解し、基本的な日常生活援助が実施でき、障害に応じた介護方法について考える。 4. 福祉分野の現場において、社会福祉制度及び関連する諸機関との連携方法について知識を深める。 5. 介護福祉士としての介護観を深める。 		
実 習 内 容			
<p>下記の実習目標を持ち、配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。</p>			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第 10 巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書			

授業科目名	介護実習Ⅱ ＜介護過程－その1－＞	実施時期	2 学年 前期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	2 単位 90 時間
授業概要・目的	対象者の施設生活を理解し、基本的な日常生活援助を行うことができる。 受け持ち利用者に対して、介護過程（アセスメント計画の立案の目標設定まで）ができ、個別ケア実践の重要性を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護利用者の主体性を引き出すコミュニケーションをする。 2. 本人主体の生活を支援するための方法について学ぶ。 3. 介護過程（アセスメントから介護目標の設定まで）ができ、個別ケアの重要性を学ぶ。 4. 介護活動の実際を通し、他職種（サービス担当者会議・カンファレンス等）との連携の方法について知識を深める。 		
実 習 内 容			
下記の実習目標を持ち、配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書	『「よくする介護」を実践するための ICF の理解と活用』／中央法規出版		

授業科目名	介護実習Ⅱ ＜介護過程－その2－＞	実施時期	2 学年 後期
担当者名	介護福祉学科 教員	単位・時間	4 単位 180 時間
授業概要・目的	受け持ち利用者に対して一連の介護過程が展開できる。介護を理論的根拠に基づいて考察することができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護利用者の主体性を引き出し、よりよいケアを行うためのコミュニケーションをする。 2. 本人主体の生活を支援するための方法について考える。 3. 介護過程（アセスメントから評価まで）を自立支援、安全と安心、尊厳の保持の視点で援助方法を考え、実践的展開をする。 4. 介護活動の実際を通し、他職種（サービス担当者会議・カンファレンス等）との連携を実践する。 		
実 習 内 容			
下記の実習目標を持ち、配属先の実習施設で本学の実習要綱及び実習要項で示した内容を施設のプログラムにそって実習指導者から指導を受けて実習する。実習中は担当教員が巡回指導を行う。			
授業形態	実習		
評価方法	施設評価及び学内評価（レポート、事前指導、事後指導等）を合わせて総合評価する。		
テキスト	『最新 介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習』／中央法規出版 本学の介護実習要綱等実習関係書類一式		
参考図書	『「よくする介護」を実践するための ICF の理解と活用』／中央法規出版		